

日本酒好きが高じ「唎酒師」に

「美声」で酔わせ 「美酒」に酔う



アナウンサー & 唎酒師

近藤 淳子

振り返ってみれば、「あつ、私、もしかして日本酒が好きなのかも」と感じるのは、物心もつかないわずか2、3歳頃のエピソード。お酒好きの親戚の叔父さんが肴にしていた辛子明太子にハマったんです。もちろんそのときはお酒を飲んだりはしませんでした、なぜか辛いものを食べては、鼻の上にいっぱい汗をかく。将来の日本酒好きを暗示していたのかも知れません。

でも20歳になっても、まだまだ日本酒に目覚めることはありません。愛媛の宇和島から大阪の大学に入学、ひとり暮らしを始め、その頃からお酒を飲むようになりませんが、そのときは、カルーアミルクなど、いかにも女の子らしい甘いものを飲んでいました。

大学2年になると抱いていたアナウンサーの夢を実現するために、平行してアナウンス学校に通い始めるのですが、あるとき、その授業後に開く「お疲れさん会」で、先生にオツな飲み方を教えてもらいました。盃を持つ手首にできる窪み、そこに粗塩を乗せ、舐めながらチビチビ。こんな飲み方があるのかと日本酒に興味がそそられました。それでもその姿のカッコ良

さに憧れたレベルで、結局大学時代の酒は、「味」ではなく宴会の「道具」に終始した感じでした。

衝撃的な出会い

北陸放送のアナウンサーとなつてついに衝撃的な日本酒に出会います。

新人アナの仕事といえば、滝に打たれる修行体験や、山中での熊狩りの取材、白山山頂でのコンサート開催コーディネート、ネットで山籠りとか、いわゆる体育会系

の内容が多いのですが、そんなあるとき『天狗舞』（石川県／車多酒造）に出会います。まさに「なんだ、このお酒は」っていう衝撃的な出来事でした。

もともと単発の仕事しかなく、時間はあるけど、実は、暇を持て余すことが苦手です。そこで『天狗舞』のことを調べてみました。すると、もともと蔵があった山の中で、風に揺れる木々の音が、天狗が舞い下りる羽音に似ていたことがその名の由来だということを知るとともに、日本酒にはそれぞれ逸話があること



も知り、ますますハマっていききました。さらに「唎酒師」の資格があることを知り、勉強し始めたら、日本酒の奥深さへのめり込んでいったのです。



日本酒への夢が広がる

毎日、少しでも日本酒を口にします。夕食の時には必ず晩酌します。晩酌と何か、ご飯食べながら飲む。太る？うん、そうかも知れない(汗)。でもその分、お風呂で汗を出すようにしています。

ひとりでも晩酌します。この酒は寝かせたらどんな味わいになるか、お燗したらどうだろうなんて飲むのがホント、楽しみです。

牛井屋さんには1人で入れないけど、おいしい日本酒があれば、1人赤ちゃん、もちろんOKです。〆幻の酒〆なんて言われたらどこへでも行っちゃう。日本酒好きっていうだけでその人のこと好きになっちゃうかもしれない(笑)。

このあいだ、真夏の暑い日に、アン肝に『和乃醇』(長野県/信州銘醸)のぬる燗を飲みました。真夏にぬる燗は初めての挑戦でしたが、美味しかった。美味しい日本酒とそれに合う肴、この組み合わせを探すことも大事だと思うんです。試飲会にもたまに行きますが、必ず肴との相性を知りたく、メーカーさんに合う肴の話聞いています。でも結局は途中から酔ってわからなくなっちゃうんですけど。それにどんなぐい飲みを合わせようかとか、冷酒ならワイングラスもいいなとか、雰囲気にもこだわりたい。

適量は2合程度で、酔うとよくしゃべり、笑う。気に入った人がいると叩いたりしちゃうらしい。

でもそれを越すと睡魔に襲われる。だから、酒の失敗談も電車で寝過ごしたことが主な原因。家とは逆方向の電車に乗り、そのまま爆睡。結局、タクシーで戻り、大散財なんてこともあった。電車に乗った時点で反対方向だと、なんで気がつかないんだろ(苦笑)。

今後は、アナウンサーと唎酒師の融合する仕事をしていきたい。日本酒の消費が低迷状況ですが、それを何とかしたい。



たいしたことはできないかもしれませんが、まずはブログ。今も発信していますが、そのおかげで、ニューヨークにいる日本酒メーカーの女性から連絡をもらい、アメリカの日本酒情報をもたえられるようになりました。それをまた再発信した

り。それにカフェで、女性をターゲットにした日本酒と美容のトークショーなんか開きたいですね。日本酒飲んだ翌日は肌が潤います。発汗作用もあり冷え性の女性にホントにいい。そうしたイベントのMCやります。最終的には日本酒をテーマにした番組をやりたい。そこからいろいろ展開できると思っているんですけど。

私にとつての日本酒は、ホントに幸せにしてくれるものなんです。自信を失ったとき、仕事に行き詰ったとき、日本酒を飲むと元気になるんです。夢は日本酒のコーデイナーに、「酒師」の資格も取りたい。日本酒バーや日本酒サロンの店も持ちたいなあ。あつ、家庭用セラーム欲しい。

一方で、局アナとしての目標はキャスターでした。都合6年間の局アナ稼業で、最後の2年間は念願叶い、キャスターをさせていただきました。ところが27年間続いていたその番組が終ることになり、これをきっかけに退社。

次なる展開は、東京でアナウンサーかソムリエ、もしくは友人と海外で起業という3つの選択肢です。でも結局はアナウンサーという仕事を選び、ハリプロにお世話になることになりました。6年前のことです。いまでこそ、いろんなところでさまざまな仕事をさせてもらええるようになりましたが、所属した当初は、月に1回のMC(司会)しかなく、近所のイタリアンでのアルバイトでしのぐ生活でしたね。

プロフィール ● こんどう・じゅんこ

1975年1月30日愛媛県生まれ。

血液型 A型。

資格：日本酒唎酒師 / 日本語教師資格

出身校：関西大学社会学部

北陸放送(TBS系)アナウンサーから2003年退職後、

フリーアナウンサーへ。テレビ番組、ラジオ番組のほか、司会、ナレーションなど幅広く活動中。